

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における

情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究

分担研究課題「地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集」

研究分担者 木下 翔太郎 慶應義塾大学医学部

研究要旨 本研究では、地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集を行い、オンライン診療の導入場面から安定したフォローアップに至るまでの経過をまとめる。ヒアリングでは、好事例におけるオンライン診療導入までの経緯、対面ではなくオンライン診療を選択した背景、導入によって得られた効果など、症例ごとに27の項目について情報収集を行う。

A. 研究目的

本邦では、離島・僻地など医療資源が確保できない地域、あるいは基本的な医療資源があっても精神科専門医が不足している地域が随所に存在する。独居高齢者の増加も大きな問題である。令和6年1月には能登半島地震が発生し、復興支援におけるニーズも改めて浮き彫りになった。

今後求められるのは、オンライン診療が地域における医療提供のあり方の一つとして適切に普及し、地域の医療体制への貢献を果たしていくことである。R6年度の診療報酬改定を経て活用の拡大が予想されるが、多くの精神科医師はオンライン診療の経験がなく、ノウハウが共有されていない。患者によっては自治体の支援が必要になるケースもあるが、自治体間の事例共有も不十分である。また、医療機関が近隣にない等の理由でオンライン診療の活用が有用であると思われる患者でも、ITリテラシーが低い等の理由から必ずしも使いこなせないケースは多く想定される。そのような場合には適

宜、自治体との連携が必要となるが、その方法も具体的に示されることで、こうしたニーズに適切に応えることが可能である。

B. 研究方法

地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集を行い、オンライン診療の導入場面から安定したフォローアップに至るまでの経過をまとめる。ヒアリングでは、好事例におけるオンライン診療導入までの経緯、対面ではなくオンライン診療を選択した背景、導入によって得られた効果など、症例ごとに27の項目について情報収集を行う。

C. 研究結果

全国の5つの機関（クリニック3、大学病院1、精神保健福祉センター1）にヒアリングを実施し、医師と患者がファーストコンタクトをオンラインで行った症例27例を収集した。

事例の内訳は、受診形態が、「本人のみ」10、「家族のみ」3、「家族同伴」6、「保健士同伴」3（うち1例は保健師・家族同伴）、「医師同

伴」4であった。疾患の内訳：主要な受診要因は、「うつ状態」7、「認知症」3、「神経発達症」3、「社交性不安」2、「睡眠相後退症候群/睡眠リズム障害」2、「アルコール依存症」1、「双極性障害」1、「強迫性障害」1、「全般性不安障害」1、「睡眠障害」1、「身体症状症」1、「解離性障害」1、「ADHD」1、「学習症」1、「初診時には確定診断には至らず」1（対面受診後、ASDと診断）であった。

D. 考察

本研究で得られた好事例は、多くの臨床家・自治体の参考になるものであると考えられた。今後、これらの導入支援事例を、手引書作成などを通して共有していくことが有用であると考えられる。

E. 結論

収集した好事例をケースシリーズとして報告するとともに、臨床家が参考にできるオンライン診療実践の手引書作成を通して、より適切なオンライン診療の普及に寄与するよう努める。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表：該当なし
2. 学会発表：該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得：該当なし
2. 実用新案登録：該当なし
3. その他：該当なし